大震災時にミニコミ紙を避難所等で連日発行

河北新報気仙沼南販売所　所長　藤田裕喜

東日本大震災時、被災者にタイムリーな情報を提供 地域に根差した活動

◉実施期間

2011年3月18日～

◉実施地域

宮城県気仙沼市内

◉活動概要

宮城県気仙沼市の河北新報気仙沼南販売所所長の藤田裕喜さんは、東日本大震災後の３月18日から、安否情報やライフラインの復旧状況、受診可能な医療機関、公共交通、保護している迷い犬、ボランティアなどの、住民が最も必要としている身近な情報を「ふれあい交差点――災害特別号」として連日発行し、避難所等で配布した。

「ふれあい交差点」は、震災以前から20年にわたり毎月１回発行しているが、今回の災害特別号から日刊化した。災害特別号100号までは毎日、現在は週３回発行して河北新報朝刊に折り込んでいる。東日本大震災時に、被災者にタイムリーな情報を提供するという地域に密着した活動が高く評価された。

＊

藤田裕喜（ふじた・ゆうき）

「ふれあい交差点」編集会議の模様
（東北放送テレビ３月20日放送より転載）

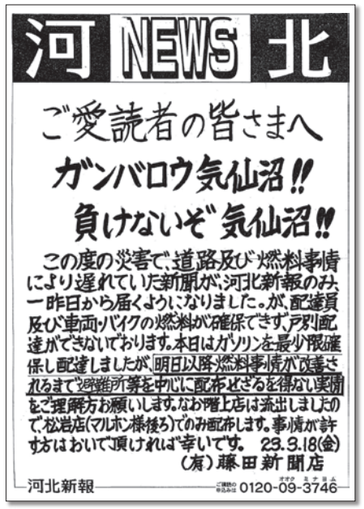
津波に襲われた気仙沼市内

自衛隊員による救出活動

避難所ではりだされた安否情報

避難所全景

◎「ふれあい交差点」災害特別号



2011年３月18日

2011年３月18日
「災害特別号①」

2011年３月19日
「災害特別号②」

2011年３月30日
「災害特別号⑬」

2011年４月５日
「災害特別号⑲」

2011年４月13日
「災害特別号㉖」